

令和4年度第4回（第77回）CPDプログラム委員会議事録

日 時：令和5年3月24日（金）16:00～17:00

場 所：Zoomによるウェブ会

出席者（順不同・敬称略）

高木真人委員長、原田克之委員、八坂保弘委員、太田賢委員、柳川博之委員、
木寺幸司委員、高田英治委員、新宅英司委員、尾崎章幹事、

配布資料

資料 4-1	令和4年度第3回（第76回）CPDプログラム委員会議事録（案）
資料 4-2-1	第43回（2022年度第5回）CPD運営委員会議事録（案）
資料 4-2-2	第44回（2022年度第6回）CPD運営委員会議事メモ
資料 4-2-3	rev2_CPD推進ホーム内容 No16_広報委員会_20230316.
資料 4-3	2022年度第1回CPD協議会全体会議 議事録案
資料 4-4-1	第4回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム開催報告 rev1
資料 4-4-2	【別紙】：第4回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム案内
資料 4-5	第2回学協会連絡会資料 20230222_rev1
資料 4-6	日本工学会 CPDガイドライン見直しドラフト r2

議事

1. 前回議事録の確認

- 資料 4-1 により、前回の議事録確認を行った。特段の修正・コメントは無く、本議事録は確認された。また、本件に関し高木委員長から以下の補足説明があった。
 - 日本工学会の情報発信については種々ご意見を頂いているが、なかなか進んでいない状況。今般、日本工学会事務局の人員を増員する予定なので、情報発信についても継続的に検討していきたい。
 - 日本のリカレント教育が社会ニーズを満たしていないという OECD の調査結果については、ポジティブに捉え、CPD や ECE でニーズにマッチしたプログラムを提供していくことを目指したい。

2. CPD協議会運営委員会（第43回、第44回）報告

- 資料 4-2-1、4-2-2、4-2-3 により、CPD協議会運営委員会の議事内容が高木委員長から報告された。

3. 2022年度第1回CPD協議会全体会議報告

- 資料 4-3 により、CPD協議会全体会議の議事内容が高木委員長から報告された。

4. 第4回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム

- 資料4-4-1、4-4-2により、3/4に開催された第4回世界エンジニアリングデー記念シンポジウムの結果が高木委員長から報告された。
 - 今年度、3/4が土曜日であり、WFEO主催のイベントも含め海外の関連行事では、エンジニアリングデー前後の平日開催が多かった。
 - 参加者数は例年より少なめで、土曜日だったことが影響したかもしれない。

5. 日本技術士会／第2回CPD活動関係学協会連絡会

- 資料4-5により、2/22に開催された日本技術士会／第2回CPD活動関係学協会連絡会の内容が高木委員長から報告された。
 - 技術士のCPD実績管理登録者数は未だ多くない。キャンペーンを行うとそれなりに増えるが、周知が十分ではないことも考えられる。技術士会で関係団体を通じて広報活動を行っていくとのこと。
 - 技術士CPD実施法人の証明を利用した登録申請は、一部の法人に集中している。
- これに関連して以下のコメントがあった。
 - CPD実績の活用できる場面が少ない分野の学会では、モチベーションを高めにくい。日本工学会でCPDの意義や社会的重要性をPRして技術者の動機づけをしてもらえるとありがたい。
 - 建設系では技術者のCPDに関する意識は高いが、実績登録機関としては、学術団体である学会と業界団体で使い易さに差があることは否めない。

6. 日本工学会CPDガイドラインの改訂

- 高木委員長から、資料4-6により、CPDガイドライン改訂の最終案が説明された。
 - CPDの用語の定義、技術者に求められる能力については、国際エンジニアリング連合(IEA)の標準改訂に基づく内容を取り込んだ。
 - CPDの考えを広く普及させたいとの意図で、CPD協議会加盟の学協会に限定する表現は出来るだけ削除した。
 - 第6期科学技術・イノベーション基本計画で謳われているデジタル関連の他、STEAM教育などのキーワードを取り入れた。
 - 社会ニーズ、産業界のニーズに関する記載を追加して、プログラム企画側でも意識する必要があることを示した。
 - 改訂審議を行ったCPDプログラム委員会の委員名簿、審議経過も添付した。
- 日本技術士会でCPD実績管理登録手続きに関しガイドラインの見直しが行われる可能性がある。その際は参考例としてではあるが、必要に応じ、日本工学会のガイドラインに反映することを検討したい。その場合はメール審議などでご意見を頂きたい。その後は日本工学会の理事会に提出する予定。

- 関連して以下のコメントがあった。
 - 以前 CPD 協議会のシンポジウムで使われていた「リベラルアーツ」は、今回のガイドラインの「STEAM」や「リテラシー」と類似の概念に思われるが、あまり一般的な表現ではないのか。
 - 「リベラルアーツ」は一般的に使われる表現で、技術者にとっても必要な資質とされている。「STEAM」の A がアーツでありそこに含まれているとも言える。

7. その他

- 次回については、別途日程調整を行う。(来年 6 月、会議時間 1 時間を前提に調整する。)
- 年度が変わり委員の交替がある場合は、幹事または日本工学会事務局にご連絡頂きたい。

以上